

ジャガイモ (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に不完全ではあるが転換する型である。窒素の吸収パターンは山型を示し、収穫後の土壌の残存養分は比較的強く制御できる。リン酸については低～中領域に適応性をもつ。

〔病害虫・雑草防除〕

無病の種イモを利用する。疫病や軟腐病等の対策として、圃場の排水を良好に保ち、生育末期に多雨が予想される場合は早めに収穫する。病害虫の早期発見、適期防除を行い、機械除草等により、化学農薬使用を低減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。	堆肥は前作施用 1～2t/10a
化学肥料 低減技術	全量基肥とし、局所施肥(条施肥など)することを基本とする。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準 以下 有機質肥料併用の 場合には化学肥料 低減率20～30%
化学農薬 低減技術	機械により中耕、除草する。 微生物農薬を利用する。 (対象：軟腐病) BT剤を利用する。 (対象：ハスモンヨトウ) 性フェロモン剤による発生予察・誘殺を行う。 (対象：ハスモンヨトウ)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	基肥は深めの播溝に全量条施し、軽く間土して播種する。 追肥を必要とする場合には、窒素は花蕾着生期前に、カリは開花期に行う。 品質向上の観点から、堆肥などは側条に溝施用することが望ましい。 塩安、塩加はデンプン価を低下させる傾向があるので施用を避ける。 水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、窒素、カリについては追肥型の施肥法をとる。 盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。	